



地域

子どもたちを
育もう！
Kids

「子ども運営委員会」で子どもたちの主体性を育てる

一 白楊小ミニ二児童会館（北海道）一

札幌市では、1中学校区に1

児童会館を基本に整備している

（2008年8月現在104館）。

児童会館は、留守家庭児童だけ

でなく、全児童の居場所となっ

ており、児童クラブ登録児童も

一般利用児童も分け隔てなく健

全育成している。そのほか、児童会館が利用しづ

らい地域の小学校の余裕教室等を活用し、ミニ二児

童会館を開設しており、09年4月から全市で53館

になる。全ての会館で「子ども運営委員会」が行

われ、各館の運営やイベント等に子どもたちが主

体的に関わり、意見を反映させている。今回は、

札幌市白楊小^{はくよう}ミニ二児童会館の「子ども運営委員会」

を紹介する。

（取材・文／有馬 正史）

白楊小ミニ二児童会館

館長の安齊敏夫さんと

児童指導員の小師由美

子さんに話を聞いた。

安齊館長は、「現在、

白楊小児童は368人

で、ミニ二児童会館には、

児童クラブ登録児童43

人と一般利用の児童が常時20、30人来館しており、

ミニシアターなどのイベントには、130人ほど

が参加します。子ども運営委員会はそれらのイベ

ントの企画・運営に関わったり、子どもたちの中

で起こったトラブルの解決などにも活躍します」

と言う。小師さんは、「ここでは、子ども運営委

員会を『ミニ児ラヴァーズ（LOVERS）』と子

どもたちが名付けました。現在、委員は9人（5

年生1人、4年生8人）です。参加は3年生から



企画づくりに白熱した
議論が交わされる



で、4月にチラシで募集します。委員会活動はまだまだ自主的とは言えませんが、去年は9月の『YOU遊タウン2008』という大きなお祭りでも、子どもたちがアートバルーンを作って販売しました。春から準備して、前日には大量のアートバルーンを作り、当日は子どもたちの発想で形にこだわらずに注文に応じて作っていました。すると、活動を見ていた低学年の子どもたちが飾り付けなどを手伝ってくれました」とうれしそうに話してくれました。

現在、ミニ児ラヴァーズは、「M'sファン」という、自分たちの好きな音楽をみんなで聴こうという企画づくりを行っている。その会議をのぞいてみると、「会場に使う理科室は寒いけど、大丈夫か」「参加人数が増えたらどうする」「どんな歌が良いか」など、侃々諤々、熱心に議論していました。4年生の山田尚徳君は、「面白そうなので入りました。去年のアートバルーンではできないことができるようにになりました」、5年生の熊本舞羽さんは「みんなで自分たちの行事をつくるとこ

ろが楽しいです」と話してくれました。

札幌市子ども未来局子ども企画課の鷲頭晶子さんは、「子どもたちの意見をより具現化するために、札幌市は予算を計上しており、年間約10件の子ども運営委員会の活動に対して活動費を支援しています。また、子どもたちに積極的に関わってもらうために、児童会館の愛称やマスコットキャラクターなどを考えてもらう取り組みを行ったり、10館ほどのブロック単位で各館の子ども運営委員会の活動を紹介し合う交流会を行ったりもしています。09年度は市内の児童会館全体で子ども運営委員会の交流会を行う計画もあります」と言う。

札幌市では、児童会館を通じて、子どもたちの安全安心を守るばかりではなく、自立した子ども育成が行われていた。全国の自治体にもこのような取り組みを期待したい。



バルーンショップ
開店準備に大忙し

